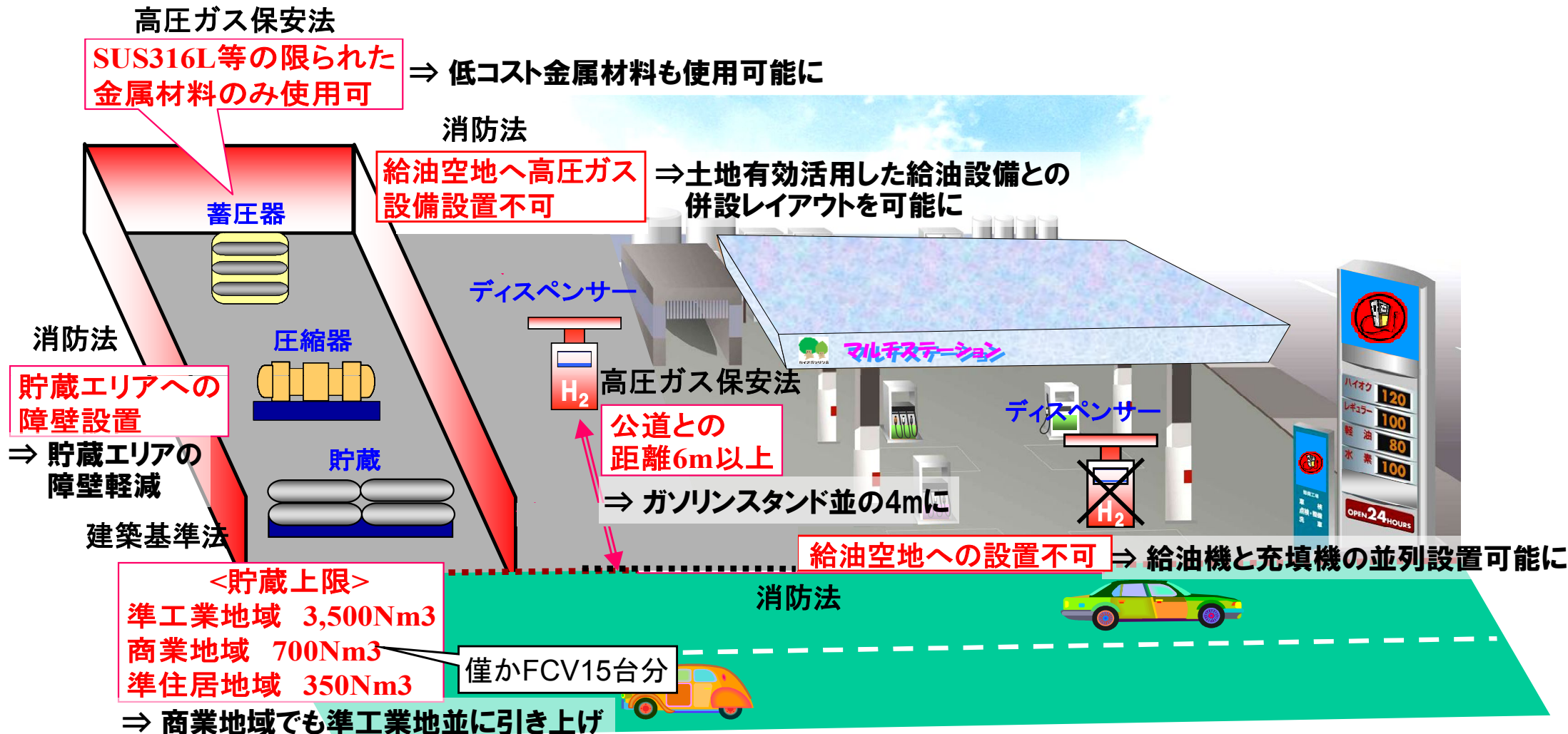


規制見直しの課題

必要な規制見直し例



「水素供給・利用技術研究組合」 実証データに基づく規制見直しの働きかけ

① F C V ユーザの視点 (ユーザ利便性)

水素ステーション等供給インフラ網のユーザ利便性検証

= 「ユーザ利便性を損なわないステーション配置の実現」
「ガソリン等価以下の水素コストの実現」

② 水素供給者の視点 (事業成立性)

水素供給事業 (製造・輸送・ステーション) 成立性の検証

= 「ガソリンに対して価格競争力を持つ供給コストの実現」

③ 社会の視点 (社会受容性)

安全・安心・CO₂削減に貢献する水素エネルギーシステム
技術の検証

クラスター、FCV台数、
ステーション数の想定

約154km²

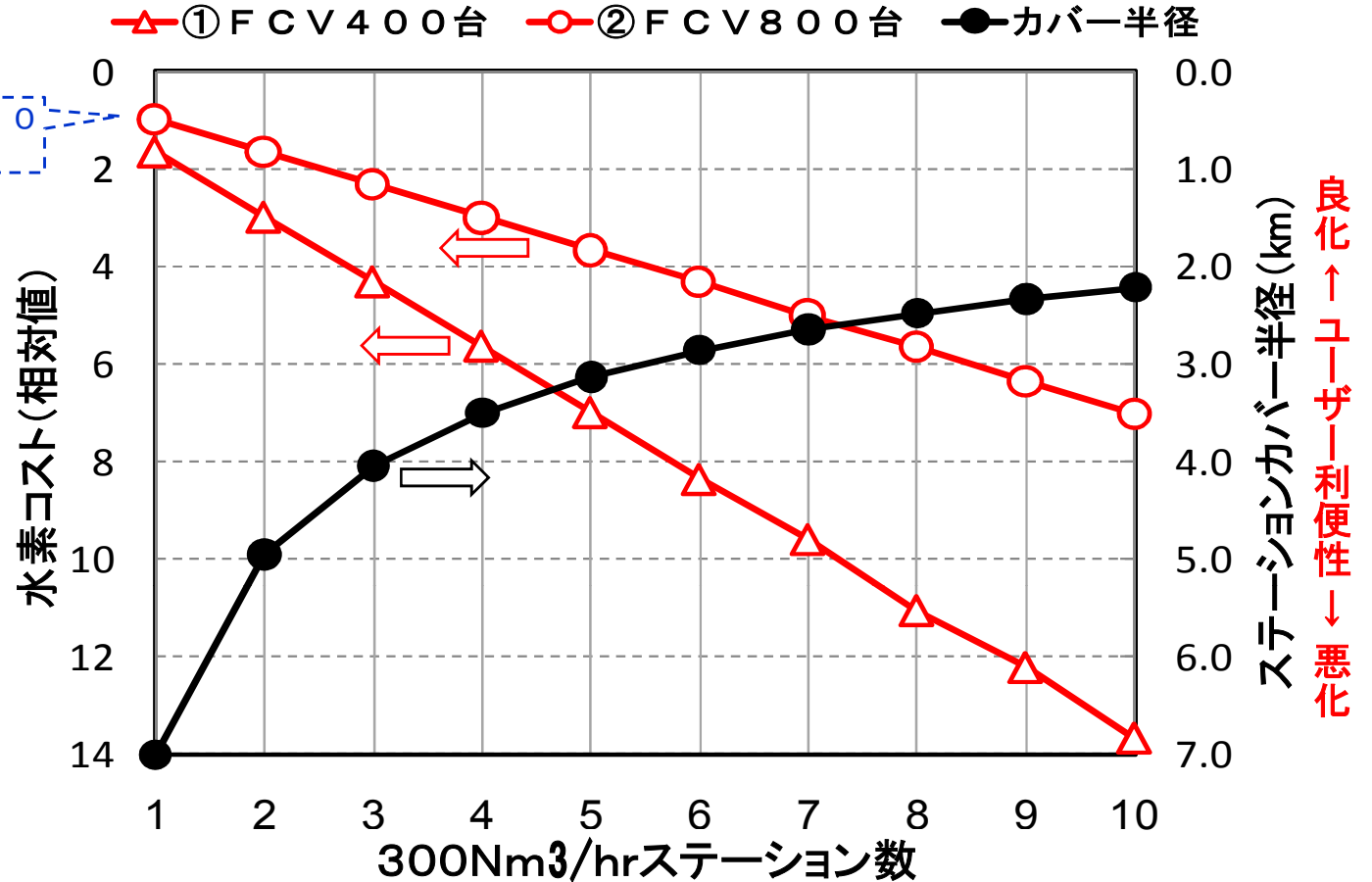
半径7.0km

FCV台数: ①400台
②800台

ステーション数: 1~10箇所
(すべて13hr/日運営)

水素コスト=1.0
(基準点)

良化↑事業成立性↓悪化



- ・ユーザー利便性（カバー半径）と事業成立性（水素コスト）は相反する
- ・ユーザー利便性はステーション数のみ関係する
- ・事業成立性は、FCV台数が少ない（＝稼働率が低い）と大きく悪化する

社会実証で、許容されるカバー半径とステーションの稼働率、運営コストの検証が必要

普及期は、いかに少ないステーション数でユーザー利便性を確保できるかも、水素コスト低減の大きな鍵

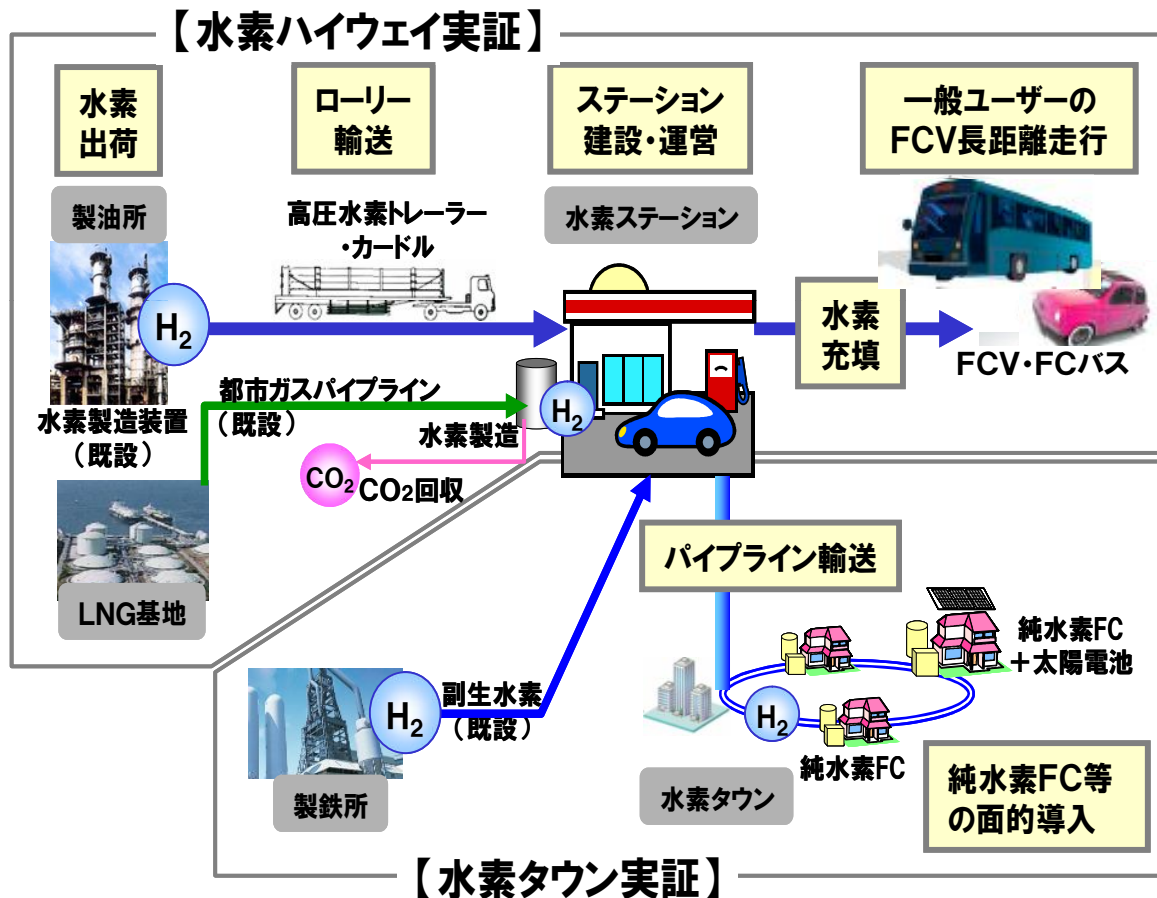
<2009年度～>

首都圏及び福岡地区にて先行実施

「平成21年度水素利用社会システム構築実証事業」

<2011年度～>

拡大を計画中



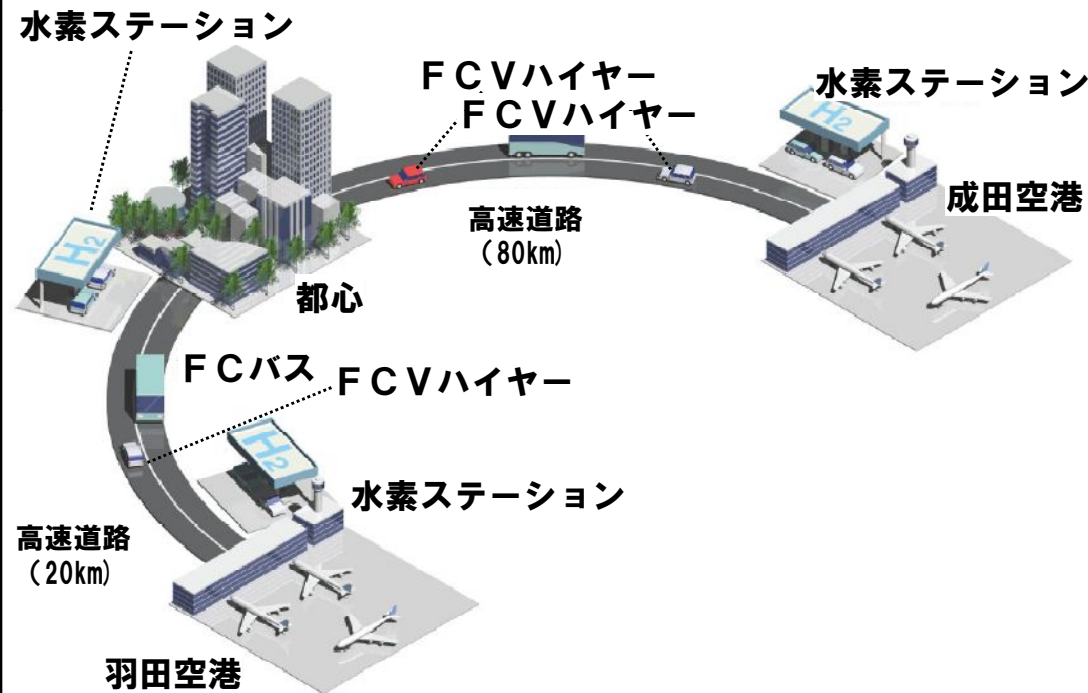
※詳細内容は
FCCJにて議論中



水素ハイウェイ実証(首都圏)

1. 水素ステーションを核とした水素供給網の面的実証
2. FCバス／FCVハイヤーによる高速道路を使った定期ルート運行

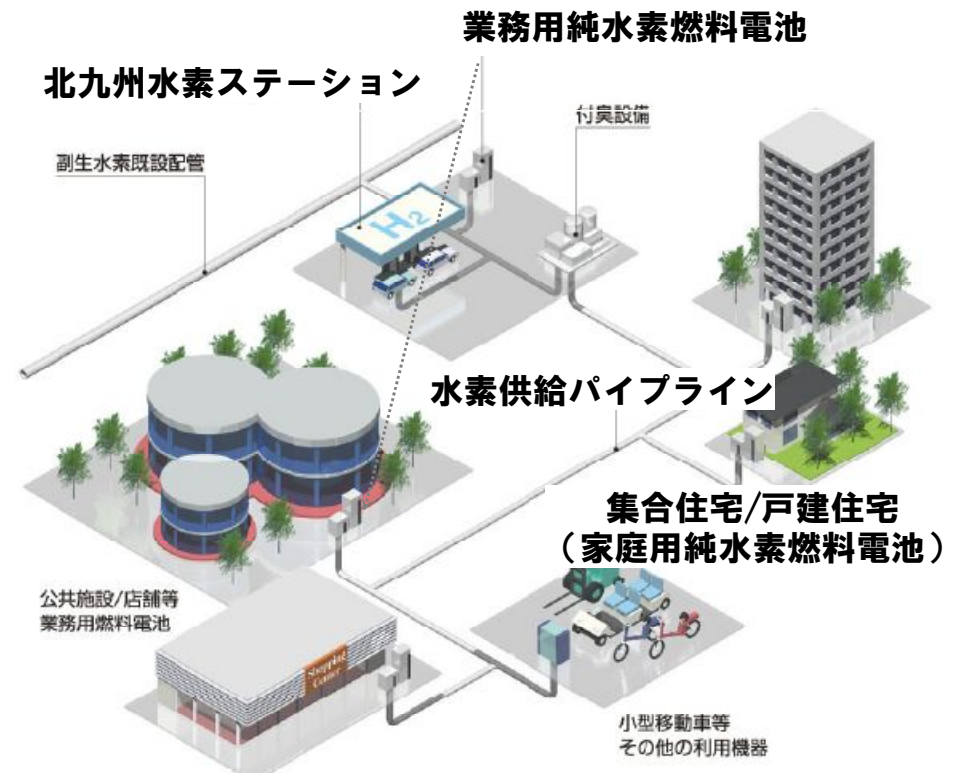
水素ハイウェイ実証イメージ



水素タウン実証(福岡)

1. 水素パイプラインによる水素供給技術の実証
2. 純水素型定置用燃料電池の面的運転実証
3. 純水素を燃料とする各種アプリケーションの実証

水素タウン実証イメージ



目 次

- 1. 燃料電池実用化推進協議会（F C C J）の
取り組み**
- 2. 産業競争力懇談会（C O C N）の提言**
- 3. 水素供給・利用技術研究組合（H y S U T）
の取り組み**
- 4. おわりに**

イノベーションへのステップとFCV

